

タイトル	<i>It's a Book</i>				
著者（文・絵）	Lane Smith				
出版年	2010 年	出版社	Roaring Brook Press		
翻訳版	『これは、本』青山南訳、BL 出版、2011 年				
総語数	163 語	ページ数	32 ページ	YL レベル	N/A
あらすじ					
<p>サルくんは本が大好き。今日もソファに座って本を読んでいます。そこへ、パソコンを持ったロバくんがやってきて、質問を始めます。「それなに?」「本だよ。」ところが、このロバくんは本を読んだことがないらしく、本は読むときにスクロールしたり、マウスを使ったり、メールを送ったりしないことを知りません。しびれを切らしたサルくんは、読んでいる本をロバくんに見せます。ロバくんは時間を忘れて本を読み始めます。さて、どんなオチが待っているのでしょうか。</p>					
紹介					
<p>本離れが著しい子どもたちや中高生にお薦めしたい内容です。決して説教臭くならず、電子デバイスとは違う本のおもしろさを伝えています。英語はとても簡単で、短いセンテンスだけで書かれているので、小学校でも使用可能です。サルとロバの掛け合いが絶妙なので、これはぜひ声に出して読みたい絵本です。ペアワークで、子どもたちにサルとロバの台詞を読ませてもいいでしょう。</p> <p>サルくんが読んでいる本は、ステイーヴンスの『宝島』(<i>Treasure Island</i>)です。一部が絵本の中で引用されています。こちらを同時に読むような指導も効果的でしょう。Pearson English Graded Readers: Level 2 や Oxford Bookworms: Level 4、ラダーシリーズ: Level 3 など、英語の簡易版もたくさんあります。</p>					
指導ポイント、授業活用例、学生の声など					
【重要語彙】					
<p>教科書には出てこないけれど、日常生活ではしょっちゅう使う英語表現が出てきます。例えば、blog (ブログを書く)、text (メールを書く)、charge up (充電する) など。また、オチに関連する jackass (バカ、まぬけ) というやや汚い言葉の意味や使い方も十分に説明する必要があります。</p>					
【授業活用例】					
<p>➤ 読み聞かせ</p> <p>小学生向けの読み聞かせに使用しました。最初に日本語版を読んで内容を理解させてから、英語版を読みます。そして、上記の重要語彙の説明をします。高学年の児童なら十分に理解できます。大学生対象に使用する場合は、英文が簡単すぎるので工夫が必要でし</p>					

よう。筆者は、多読用図書の一部として教室に持っていきました。長い本を読んでいると疲れたときに、息抜きにこんな楽しい絵本も悪くないよと言って勧めたところ、読んだ学生からは、「絵本もバカにできないですね」といった感想が返ってきました。

関連作品・参考 URL

【Smith による他のお薦め絵本】

- *It's a Little Book* (Roaring Brook, 2011) (翻訳なし)
サルくんとロバくんが赤ちゃんになったバージョンです。

(文責：深谷素子)